

主に関係する 領域・教科	国語	氏名：道端 真乃
教材・教具名	指文字カード	
ねらい	名詞や動詞の音を、指文字で確認できる。	

教材教具の説明

①名詞（友達や先生の名前、教科、好きな食べ物等）

・音の数をシールで表し、指文字で確認できるようにするもの。



②動詞

・イラスト、手話と併せて、指文字で確認できるようにするもの。



制作のポイント	使用材料・部品
<ul style="list-style-type: none"> ・友達や先生の名前など、興味のあるものから始めるようにした。 ・発音しやすい2～3文字の言葉を中心にした。 ・裏面に答えを記載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・○シール ・ラミネートフィルム

(使い方、工夫など、活用場面を写真等でわかりやすく説明 箇条書きで記入)

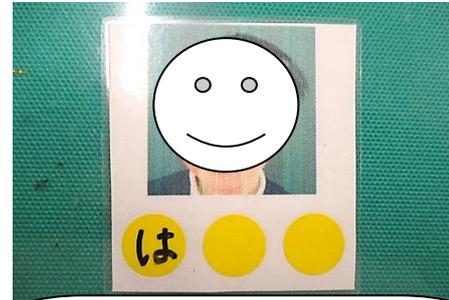
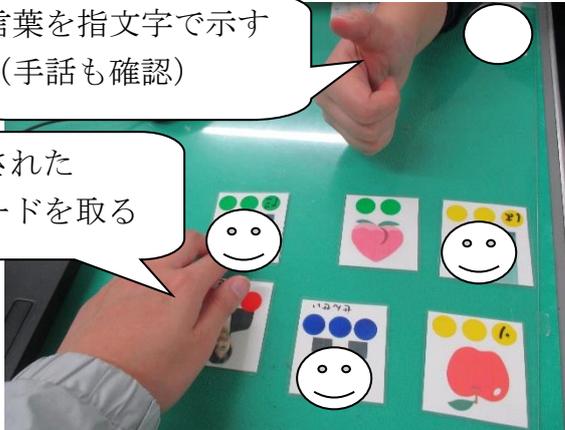
(裏面使用も可)

①名詞

- 指文字カードをかかるとのように並べ、教師と交互に問題を出し合った。学習したての頃は最初の1文字を書いておき、徐々にヒントをなくしていった。

言葉を指文字で示す
(手話も確認)

示された
カードを取る



ヒントとして、最初の文字を
書いておく
(徐々に減らしていく)

実
践

②動詞

- イラストと手話に合った指文字カードを置くことを繰り返し行った。



- 児童が手話をしている前で教師がその言葉の指文字を示すことで、音を確認できるようにした。

(例) 児童：手話「食べる」 教師：指文字「た」「べ」「る」

効
果
・
改
善
点
等

- 友達の名前や教科、自信をもって発音できる言葉を中心に、指文字で正しく表すことのできるものが増えた。
- 指文字のヒントがなくても音がわかる言葉が、徐々に増えてきた。イラストを見て穴あきシートに言葉カードを並べ、「〇〇が…をたべる」や「〇〇が…へいく」などの文を作ることができるようになった。
- 指文字で表せるようになったことで言葉の音がわかり、書くことへもつながった。カードを並べて作っていた文を自分で書くことができるようになってきている。
- 文字数によってシールの色を分けても覚えやすいかもしれない。